

空海をめぐる

つちや
博

一 空海の和歌

「日本偉人百首通解」（大正二年刊）は大坂毎日新聞の「偉人歌留多」として撰せられたる百首を収録す。（素戔鳴尊より乃木大將まで。）弘法大師よりは、「忘れても汲みやしつらん旅人の高野のおくの玉川の水」採用せらる。弘法大師、高野山を開基するに際し其處に玉川の清き流れを見出したるべし。（註）本居宣長は「玉勝間」卷十一に於いてこの歌を「後の人の偽りてつくれるもの也。空海この歌のさまにあらず、そのうへ二の句、後の人をいましめたる意なれば、くみやせむといふべきに、さはいひがたき故に、しつらむといへるなど、此詞かなはず」とす。

二 空海の漢詩

明治書院「新釋漢文大系 日本漢詩 上」には釋空海の漢詩として一作品のみ掲載せらる。曰く、「後夜佛法僧鳥を聞く 閑林獨坐す草堂の暁 三寶の聲一鳥に聞く 一鳥聲有り人心有り 聲心雲水俱に了了」と。佛法僧と鳴くは「このはづく」なる鳥。三寶とは佛寶・法寶・僧寶を指し、了了は明らかなるさま。

三 いろは歌

池口惠觀著「空海 折れぬ心をつくる言葉」によれば、お大師様の作とも言はるる「いろは歌」は以下の如くに解釋せらるる由。

いろはにほへとちりぬるを「諸行無常」

わかよたれそつねならむ「是生滅法」

うみのおくやまけふこえて「生滅滅已」

あさきゆめみしゑひもせず「寂滅為樂」

四 映畫「空海」

東映映畫「空海」（一九八四年公開）は、空海の生涯を俯瞰するに最適の作品と覺ゆ。特撮、壮大なるスケールの中國ロケを含め忠實かつ眞摯に入定迄を丁寧^{じんじやう}に畫く。空海役の北大路欣也、最澄役の加藤剛、共に適役なり。

五 司馬遼太郎著「空海の風景」

世の多くの人々に空海を再認識させたる功績甚だ大なり。小説といふよりは啓蒙的評論に近し。

六 角川ソフィア文庫

ビギナーズ日本の思想シリーズとして、三教指歸、祕藏寶鑰、般若心經祕鍵、弁顯密二教論、性靈集など數冊あるは便利。

七 「日本思想體系 空海」

岩波書店刊、「祕密曼荼羅十住心論」の原文を収録す。

八 「日本の名著 最澄・空海」

中央公論社刊、「三教指歸」及び「文鏡祕府論序」の現代語譯を収録す。

九 「こころの時代 日本佛教のあゆみ」

東洋大學學長竹村牧男氏を講師とする全六回に亘るテレビ番組用テキストなり。(放送は二〇一五年) 第三回「密教の曼荼羅世界」に於て空海の思想を分かり易く説き明かす。

(令和二年二月七日受附)